

～コロナ禍をこえて～

# 見た!撮った!すてきな出西

## 新・出西の歴史探訪⑥

### 万延元年の仁照寺古絵図

新川の開削は、斐伊川の洪水防止と新田開発を狙いとして天保2年(1831)に行われた出西史上最大のプロジェクトでした。剣崎(中出西)から宍道湖に至る幅200メートル、長さ約10キロメートル。松江藩内全ての地域から2年間で延べ56万5千人が動員されました。この開削で約千人の農民が耕作地を、30戸が家をなくし、四つの寺が移転を余儀なくされました。神守の仁照寺もその一つです。当時仁照寺は、「船子山神照禅寺」と号し、神守地区のほぼ中央、今の樋野医院の近くにあったそうです。

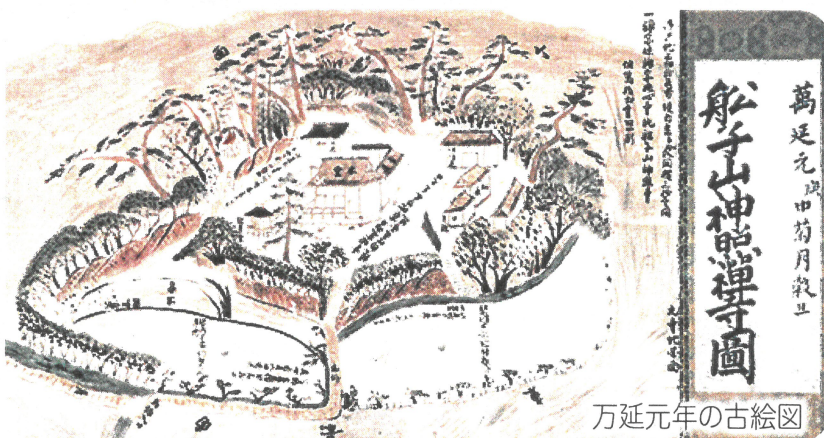
本堂に掲げられた古絵図は、万延元年(1860)に書かれた、移転前の神照禅寺であり、当時を偲ぶとても貴重な資料です。また、最近「移転見舞控」という資料も見つかりました。

移転先を決めるために当時の住職の要峰和尚は、1尺3寸の薬師如来像を背負って遠近の山野を逍遥していたところ、今の船子山に来た時に薬師如来像が急に重くなり、「この地よし」とのご霊験があって、今日の寺院を建立しました。

また、移転するお寺の遺骨が放置されたままであったので、亡霊が出没し地元民を困らせました。そこで松江藩に訴えて寺内に「新川地亡霊塔」を建立し供養したところ、亡霊は出なくなりました。



新川地亡霊塔



万延元年の古絵図

新川普請之節諸方見舞扣

天保三年

卯二月十三日

移転見舞控

【参考】

江角弘道著『おかげさま』